

桐鈴凜々

第85号
平成24年9月15日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp
/~tourei/

「先進地、長野へ行ってきました」

——利用者に合った仕事を——

桐鈴会評議員 井口美賀



七月一日、来年四月に始まる作業所と喫茶店のための、施設見学に行った。長野県知事秘書大月良則さんの案内で、長野市内の推薦箇所を回った。

まずは「キッチン CoCo」といって、お弁当を作り販売している。国道を行くとよく目立つ赤い文字の看板ですぐにわかった。

お邪魔した時間は、お弁当を販売に出かけたあとで、後片付けの人が数人おられた。みなさん、帽子から足元まで完全装備の作業着で、衛生面でかなり配

慮されている様子。廊下の壁にはお弁当の写真入りメニューが掲示されていた。どれも野菜がふんだんに使われているし、コロッケなんかははみ出しそうでお昼前でもありお腹の虫が騒ぎ出す。

お弁当に使う野菜は、ここから車で七〜八分のところにある「アトリエ CoCo」の畑で収穫されるとのこと。そちらへと移動する。

その建物では主にクリーニングの仕事をしていた。大きな機械に汗だくで付いている人、

たくさん洗濯物を畳んで仕分けしている人、さまざまな仕事をみなさん手際よくこなしていた。増築した建物では、大きなタイルの裏のノリを綺麗に剥がす作業をしていて、これがいい工賃になるとのこと。空調の効いた部屋で、体温調節が苦手な利用者さんたちが作業していた。建物の廊下には、仕事以外のお楽しみ企画や、地元の小学生とのイベントの様子が写真で紹介されていた。二年前から交流を深めてきているとのことだった。

お弁当に使われていた野菜は裏の広い畑で栽培していた。ズッキーニやヤーコンがなっている様子は初めて見た（ヤーコンは葉っぱしか見えませんが）。ここで採れた野菜はお弁当に使うだけでなく、車で売りに出ていく。



このあとは「エコーンファミリー」。駐車場はたくさん送迎車で埋まっている。パンの製造販売、ほかにも炭せつけんや豆腐（そこでは「豆腐」という文字をあてていた）作り、メール

便の配達等々、たくさんの方に取得してもらった。重度で生活介護利用の人たちも、できることに参加して、工賃もいいほうだということだった。

こちらで製造販売しているパンを数種類と大豆珈琲をお昼にごちそうになった。千切り大根とハムのサンドが珍しくておいしかった。

食事のあと、所長の小池邦子さんのお話を聴いていると、利用者で重度の自閉症と思われる女性が、部屋に入ってきた。無言のまま私の腕をとって部屋の外へと案内する。小池さんが「隣の部屋へ」とおっしゃるのでそちらへ誘ったが、彼女は私を引っ張ってどんどん一階へと進んでいった。でも階段の途中で止まってしまい、とまどう風をするうちに、スタッフさんがかけつけてどこへか連れて行ってあげた。

あの人はここではどんな仕事をしているのだろう。同じく重い障がい（知的十身体）の息子が作業所でどう過ごしたらいいのか考えている最中だったので、気にかかる。

四番目には、善光寺の門前通りにある「曇り時々晴れ」という喫茶店と、隣接している「もりたろう」というレストラン。どちらも経営者は同じで、とてもおしゃれなお店だった。さすが、全国から人の集まる善光寺のお膝元に構えるだけあるなあと感じた。いかにも「障がい者の作業所」といった、殺風景で実用一点張りな感じではなく、雰囲気を楽しめるこんなお店で働くのは利用者にも張り合いになるだろうなと思った。

レストランの厨房で仕事をしていた青年は、私たちが入っていくと、すずんで仕事の内容を教えてくれた。ニコニコ嬉しそうに、イラストなどで構成してある仕事内容のポスターを説明してくれる。彼はこの仕事がとつても気に入って、誇りに思っているんだと感じた。

一週間後の一七日は、一〇日に時間がなくて回れなかった。「ふつくら工房 ふるさと」へ。玄関を入るとすぐ壁に求人掲示がしてあって、パンづくりや箱折り、ホテルや施設の清掃、

きのこ工場、家畜の飼料作りなどなど、三〇くらいの仕事写真で紹介してある。利用者は今の仕事をひととおり出来たとすると、壁の求人広告を見てつぎにやってみたい仕事を探すのさそうだ。職員も、ずっと同じ仕事を担当するのでなく、短い周期で違う仕事に替わって行く。

いろんな仕事に挑戦してみても、経験を積み上げていくことが自信になるといえるのは、障がい者に限らず、一般でもそんな働き方ができたらいいのにと考えた。



先進的な施設を何箇所もまわって、目を見張ることばかりだったし、ひとつの作業所がいرونな仕事に取り組んでいるというのが、柔軟な感じで、とても参考になると思った。でも、長男がそこを利用するとしたら？と考えてみると、イメージが膨らまない。同じような障がいをもつ、あの人この人、どうもしっくりこない。歩ける人、手指を使える人、意思が伝えられる人：じゃない場合、どんな形の参加ができるだろう。

事業所としても、どういう支援をしたら、うちの長男でも利用できるんだらう。いや、あまり考え過ぎないで、その環境に入ってみれば、その人なりに利用の仕方が見つかつてくるのかな。重度の場合、利用の仕方は働くというよりも、一日そこで過ごしてくる「生活介護」。

長男は経管栄養のチューブが鼻から胃に入っていて、日に一回く数回、興奮状態になると手足をバタバタと振り回すが、その時にチューブが手にひっかかって抜けてしまうことがある。挿入は医療行為で、親か、看護師しかできない。日に何回かのチューブからの水分摂取も同じく親か看護師。もつと重度の人になれば、胃ろうからの栄養摂取や、気管切開の人なら頻繁な痰の吸引。これを日常的に家庭では親がやっているが、作業所ではいちいち看護師がしなくてはならなくなる。見学してきた所には、フルタイムの看護師はいなかった。

重度の場合、人数も少なく受け入れてくれる所も少ない。「生活介護」という支援も利用

者の状態によって内容はさまざま。手厚い世話の必要な人は、初めから利用をあきらめていたりする。私たちの作業所はどこまで支援していただけるのさう。幅広く利用してもらえる場所になりたい。



「とんとん会議」
「すずかフェ・アブル(エイブル)」

桐鈴会理事長 黒岩秩子

来年四月一日にオープンする工房とんとん。そこにボランティアとしてかわろうという森山里子、広田セツ子、鈴木智子、井口美賀、行方ヒロ、のほか、管理者になる予定の星野淳子、サービスマン管理責任者になることになっていく佐藤雪江、鈴懸施設長林幸英、パート職員になる予定の山本孝子が集まっていろいろと話し合ったり、見学に行ったりしているのですが、その集まりを「とんとん会議」と言っています。

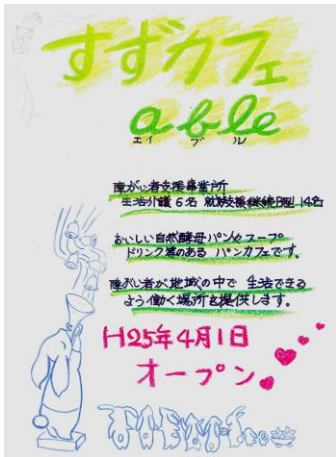
喫茶店の名前が決まりました！読者の方からも、入居者、職員、役員の皆さんからも五〇個を上回るアイデアが出され、関心がある方々の投票によって、「すずカフェ」と決まりました。これが七票で、六票が二個、「陽なたぼっこ」「うさぎの森」でした。「すずカフェ」は発音すると「すずかけ」と間違い易いので、able（えいぶる）とつけることによってそこをクリヤーしようというのが、私のアイデアです。ableというのは、皆さんがご存知のように「できる」「有能な」「可能性」などの意味があり、以前「able」という題名の映画がありました。日本人のダウン症の青年と、自閉症の青年が、アメリカに行つてホームステイをする、ドキュメンタリーでした。その時から、ableは、障がい者の呼び方になってきました。そういう意味を込めて名付けたのです。「とんとん会議」での了承を得て決めました。よろしくお願ひします。

工房とんとんは、重度の方の「生活介護」が六人、軽度の方の就労継続支援B型が一四人と

いうことでスタートします。メインは、パン作り・パン販売、そして喫茶店ですが、萌気園や、子ども園などの掃除を請け負ったり、できる仕事を探してきて、何にでも挑戦していきたいと思つています。重度の方だけでやつているレストランがあると聞いています。工夫次第でいろいろなことができるのではないかと、楽しみにしているところです。

八月三日の桐鈴会の夏祭りの時に、パン作りの勉強を毎週している森山、広田、そしてその先生の山本孝子さんの三人が作ったクッキーを売りに出し、買った方々に「すずカフェ・able」のチラシを配りました。これは、星野淳子のアイデアで、星野作のチラシ（写真）が人気を呼んでいました。

南魚沼市障がい者相談支援



可愛いうさぎは桐鈴会のシンボルマークです。

センターの江部さんが、八月末に来てくださって、こちらの進捗状況を聞き、利用者さん発掘を支援してくださることにになりました。旧大和町地域ではじめてできる「日中活動の場」です。多くの皆様のご協力によって、来年度素敵なスタートが切れるようにと願っています。

お国のために戦没されました方々のことが、最近忘れられたかのような思いがしてなりません。戦没者のお墓参りをされるご遺族の方々の近況を見るにつけ、心境を察し申し上げます。神社の拝殿に沢山の供物がありました。綿の入った袖なし。古里のあのうまい水がビンに入りました。戦没者の御霊に届けてくださいと、お供えしたご遺族の心境を思うと涙がとまりません。

九月二〇日が「工房とんとん」の新築工事の入札です。

内外地で約三百万人もの戦没者があり、いまだに野晒しになっている仏様もあるとのこと。これら戦没者の霊は靖国神社に合祀されています。せめて天皇陛下と総理大臣は、年に一回は参拝しなければならぬと思ひますが参拝しないのとこと。お国のために身を粉にして戦つてくださいました戦没者に対して、誠に申し訳ないことだと思ひます。国家予算がいかに苦しくて、何時でも誰でも参拝できる場所を造るべきだと思います。

入居者コラム
「戦没者を思う」



ケアハウス鈴懸
入居者 星 浅兄

戦争は絶対反対です。憲法九条を守りましょう。

南雲ユリさんご逝去

子どもを背負って

ダンスホール



ケアハウス鈴懸 島村義彦

去る七月二十八日零時二六分、南雲ユリさんが急逝された。夕食後吐き気を訴え、大きな声で「痛い」と叫び、嘔吐を繰り返した。死因は急性腹膜炎。胃や十二指腸に穴が開いていた。享年九二（満九〇歳）。最期に苦しまれたことが悼まれる。



ありし日の南雲ユリさん。「鈴懸10周年記念祝賀会」にて

旧守門村大倉の生まれ。女学校を卒業後、小学校の代用教員を務めていたが、結婚を機に退職。夫が亡くなってから、ご長男夫婦と一緒に横浜で暮らしていたが、事情があつて大倉に移り、平成一四年に鈴懸に入居した。私が就職した一八年頃は立ち上がりに苦労していたけれど、歩行器を使って食堂まで降りてきていた記憶がある。

南雲さんと私が接するようになったきっかけは、整形外科への通院の付き添いだったと思う。その頃、足や膝の痛みと闘っており、手術をするか、そのままにしてリハビリをするか検討していた時期だった。レントゲンを見せられると、膝や足首の関節はボロボロで、骨盤は鉄の板で止められている。結局、手術はやめたけれど、次第に車椅子を使わなければならなくなり、生活全般を介護に頼るようになっていった。

この頃、「みんなが汚れものを喜んで持って行って、お金に替えている」とか、介助するヘルパーのことを「この人は商売しに来ている」と大声を出した

りして、私たちを困らせた。南雲さんも苦しい時期だったのだろう。思うように動かない身体。それを嘆いたり、責めたりする。他人の世話などになりたくないのに頼らざるを得ない生活。対応する職員への不満も溜まってくるのだ。介護を受ける当初に誰もが通る道なのだと思う。

南雲さんは、リュウマチ・骨粗鬆症・心不全・胆のう炎等々、病気のデパートだった。何度も死にかけ復活してきた。三途の河を渡ろうとしたら、「お前はまだまだ来ないで良い」と追い返されたと言っていた。のんびり屋さんで、「どうでもいいや」とか「生きていてもどうしようもない」とか投げやりなことを吐く一方、積極的なところもあった。通信教育で色鉛筆画をやったり、スケッチをしたり、編み物や川柳も手を出した。ベッドの上で、よく読書をしていた。おしゃれ好きで人前に出るときは服選びに時間をかけた。昨年の春には「立って歩けそうだな」と思ったように立ち上がりの練習をしようとして、骨折してしまつた。代償は病院での退屈な

生活。

ほとんど寝たきりの生活になつた南雲さんが一番楽しみにしていたのは、ヘルパーさんとの午後のお茶の時間だったと思う。いつもより饒舌で、表情も明るかつた。ある日のお話し。大湯に住んでいた頃、あまりにも旦那さんの帰りが遅いので子どもを背負って、ダンスホールへ通つた。旦那さんは小学校の先生をしていたのだが、PTAから「南雲先生の奥さんがダンスホールへ行っている」と抗議が来たという。その話しを聞いてみんな大笑い。その上、五十沢育ちのある入居者が「おれは田舎者だから、そんな洒落たところに行つたことがねえ」と言い出したものだから、余計に受けてしまつた。ある夜、旦那さんの学校に行つて、そつとのぞいてみると、旦那さんは一生懸命ガリ版刷りをしていたという。何とも南雲さんらしい話だなあと思う。

僕は二日酔いになると、南雲さんの部屋でサボっていた。他の職員も休憩所に使っていたようだ。とつても落ち着く場所だ

った。用が済んで、部屋を出る時には、いつも「ありがとネ」と後ろから声を掛けてくれた。そんな部屋がなくなつてさみしい。

今でも覚えているのは桜井寅吉さんの葬儀の際に参列もせず、なかなか見送りにも行こうともしなかったこと。隣室の桜井さんとは自分が亡くなったときはひっそりと皆とお別れしようと約束していたらしい。ところが、夢草堂で葬儀をしてしまった。それで腹を立てていたらしいのだ。南雲さんは、長男の寛一さんにしっかりと伝えていたようで、静かに去っていった。

旦那さんとは良いことばかりではなかったようだけれど、もう少し経てばきつと、横浜のお墓で一緒になるだろう。そうしたら、「お前の残した年金で不自由なく暮らせた」とお礼でも言つて、仲良くやつて欲しい。さようなら。



南雲ユリさんは、鈴懸川柳の会に入会されていて、「ねんねこ」の俳名のとおりホツと心が温まるような句を作られています。これらの句は五月の句会の折に投稿されたもので、南雲さんの遺作となりました。

・書きとめて 思い出せずに
苦勞する

・動けなくて 体調リズム
年も年

・佐渡のトキ 色美しく
あでやかに

・吹きながし うろこだらけで
笑わせる

・雪形は さがしているうちに
なくなった

・農繁期 野菜の話で
じまんをす

(ねんねこ)

新入居者あいさつ

「お世話になります」

ケアハウス鈴懸入居者

井上信吉・キミイ



今度（七月入居）新しく鈴懸の皆様方の仲間に入れていただきました、井上信吉とキミイでございます。私は生来無口ですが、婆さんは陽気で明るい対照的な夫婦です。これから長いお付き合いになると思いますが、よろしく願います。

人生には幾度かの転機があったと思いますが、今回鈴懸からの電話が人生最大の転機の始まりでした。

申し込みをした時点で、終の棲家とする覚悟は出来ていたつもりでした。が、心の葛藤はそんな簡単に解けるものではありませんでした。長年住みなれた土地を捨てるのが如何に重いか、身にしみて思い知りました。引越などで身も心も疲れた私達を、明るく温かく迎え入れてくれた職員さんの対応に心が

ほぐれる思いがしました。

まだ来てから一ヶ月くらいですが、良き助言者もいて気持ちも落ち着き、本当に良いところに入居させていただき、ホテルのような生活を満喫しています。有難うございました。今後、職員の皆さん、入居の皆さん、何かとお世話になると思いますが、よろしく願います。



〈編集部注〉

井上さんがここに入られるときの決断とその後の心の葛藤は、多分入居者すべての方々の心境なのでしょう。

にぎやかだった夏祭り

ケアハウス鈴懸

入居者 印牧クニ



八月三日鈴懸の夏祭りが盛大に行われました。昨年は雨に見舞われましたが、今年は天気恵まれ最高の一夜でした。

当日の朝会場の準備に五時から、理事長、施設長を始めボランティアの方々と職員の方々が集まりました。朝から蒸し暑い中、テント張り、提灯の飾りつけ、ステージの必要物品の用意等々活躍され、朝食の時間までにはすっかり祭り会場が設置されました。

祭りの始まる夕方六時前からお客さんが集まり、定刻に施設長の開会の挨拶。その後盛りだくさんの催し物が賑やかに始まりました。

祭りの太鼓の音を聞くと心がウキウキしてきます。

楽しかった

まず、紅白の歌合戦では、各自の熱唱に拍手が止みません。勝敗は紅白どちらか決められなく、また惜しいことに審査員も居なくて残念でした。

踊りでは、揃いの衣装に編み笠での阿波踊りはヘルパーさん全員の出演と聞き驚きました。

さんよ節、大和よいとこの盆踊りの輪も大きくなり、手拍子と笑顔で華やきました。また、個々の股旅ものの立ち居も見事でした、日本舞踊のしなやかな美しさに拍手は止みませんでした。

仮装も圧巻でした。

小林幸子さんに変装された方はどなたでしたでしょうか。帽子にドレス、ハイヒールの正装で、歌も踊りも本物の小林幸子さん以上の人気でした。最後までモデルはどなたか分からなかった人も多かったようです。男性だったことは間違いありません。

ステージも華やかでしたが、屋台の方も大繁盛でした。飲み物の店では長い行列ができ、店員さんは夕食におにぎりを立ち食いで済ます忙しさで、汗びっ

しよりの繁盛でした。

子どもさんも楽しみが多かったようです。食べ物におもちや、綿飴にかき氷など行列が続きました。一時電源のブレーカーが落ちて中断し、屋内のコードでつなぎ再開したほどの繁盛でした。

終わりに近づき最後のカード合わせゲームの始まりとなりました。前もって小林幸子さんから渡されてある札の番号と、司会者の読む番号の合った人が当選です。当選者は札を持って手を振りながら本部に向かって行きます。景品は何でしたでしょうか。ニコニコ顔で元の席にもどります。かなり沢山の当選者も出ましたが、残念ながらカードの合わない空クジの人もいます。当りはずれの人がいて、これが又ゲームの面白さと話は賑わいます。

やがてゲームも終わり、司会者の終わりを惜しむ言葉と共にね太鼓の響きとなりました。

最後に黒岩理事長のご挨拶をいただき、お祭りの終了となりました。



(右) 子どもに一番人気のボーリングゲーム。
(上) 謎の小林幸子。果たして正体は誰？



夏祭り

夏祭り

夏祭り実行委員長

岡田としい

朝から晴れマーク。天候に恵まれた桐鈴会の夏祭りが、今年も沢山のボランティアと皆様のおかげで無事終える事が出来ました。ありがとうございます。
今年度は舞台の出し物で目先を少し変えてみました。楽しんでいただけたでしょうか。話題をさらった二つの出し物について、ウラ方ならではのエピソードを紹介します。

紅白歌合戦 小林幸子登場

きっかけは、カラオケを紅白対抗にしたらかどうかという入居者からのグッドアイデアでした。貫禄十分な男性歌手はすぐに決まったのですが、女性がなかなか決まらず、そこで小林幸子歌手に出演交渉してみたら、あっさりOKをもらったのです。

案の定彼女の活躍で、会場は話題沸騰でした。自分の持ち歌の「雪椿」かと思いきや、ひばりの「悲しい酒」を情緒たっぷりな唄いあげ拍手喝采。さりげない薄化粧、あざやかで派手なワンピースで体型をカバー。そして高さ5cmのハイヒール姿が何と言っても一番ステキでした。盆踊りにも参加してくださり踊りも披露。最後に楽屋ウラでこっそり「来年も来ようかしら」との言葉。この時彼女は酒を飲みすぎたと相当酔っ払っていたことは確かです。

体力作りから始まった あわ踊り

八色連のあでやかな姿に仲間入りさせてもらうことになった職員の、練習の第一歩は「まず走ってもらおうかな」の青木リーダーの言葉。殆どがおばさん連中では何年振りかの全力疾走に心臓バクバク飛び出しそう。練習会場二十周は走ったでしょうか？その後、手と足の運び方を丁寧に教えてもらおう。足のつま先を屈伸させ、向きをしっかりと保つ。手はしなやかに前後に



躍動感溢れる八色連と女性職員の阿波踊り。

動かす。これを音楽に合わせて果てしなく繰り返す。初めのうちはリズムが乱れたり、足がひきつたりしましたが、練習の最後の方には、リーダーからのお褒めの言葉をもらうまでに上達したのです。当日の出来栄えもとても評判が良く、特に踊りの列が会場の中に入った時には、まつりの雰囲気も最高潮でした。青木さんはじめ八色連の方々の御指導、本当にありがとうございます。また沢山の職員の参加で入居者の方々も大変喜ばれていたようです。

来年も会場の皆様、入居者、

職員とみんな楽しんでるまつりにしたいと思っています。皆さんのグッドアイデアお待ちしています。

とってもいい話!

桐の花の最古参、関キミさん。「きんか(ろう)」と自分のことを言っておられる。実際多くの音は聞こえない。でも太鼓の音は体に響くのか、車椅子に座ったまま、手で踊りを始めた。そこで、嫁さんが車椅子を押して盆踊りの中に入り、最後まで車椅子盆踊りとなった。同じく、三途の川から戻ってきたばかりの大塚悦子さんも、星野淳子に押されて車椅子盆踊りとなった。暑い夜に心和んだひとコマでした。(秩子)



車椅子に乗って盆踊り。

秩子の部屋



今年の四月にGH（グループホーム）ひまわりに入居した戸田聰さんは、昭和五一年四月五日生まれの三六歳。本人がそう教えてくれました。ひまわりただ一人の旧大和町の方。黒土新田に家があり、この三月までは隣町にある魚沼更生園に住んでいて、土日には自分の家に帰って一人で生活していました。お母さんは彼が二〇歳くらいの時に亡くなり、お父さんは六日町の「ゆうゆうの里」に入居され、弟さんは二人の子ともと家族四人で横浜に住んでいます。

赤石小学校を卒業した後魚沼学園に住むことになり、小出養護学校中等部に通っていました。卒業後は更生園に移って、主に農作業をしていたといえます。

私「どんな物作っていたの？」

聡「ナス、トマト、トウモロコ

シ、花も作っていた」

私「赤石小学校にいたころと、小出養護学校にいたころでは、あなたにとってはどっちがよかった？」

聡「赤石のほうがよかった。友達がいっぱいいいたし……」

私「いじめられたりはしなかった？」

聡「はい」

私「赤石小学校の友達とは会うことある？」

聡「町民運動会とかで会う」

私「赤石の町民運動会に行くの？」

聡「はい。九月九日です」

私「あら遅いのね」

聡「浦佐は早いです」

（いつも八月中にやっています）

私「あなたも赤石の町民運動会に出るの？」

聡「はい。毎年マラソンに出ています」

——実は、彼はマラソンがとっても好きで、毎日この暑い中を町中走っているのです。これまでも町民運動会に出たということを知りました。——

私「更生園とここでの生活とどっちがいいの？」

聡「こっちはです。楽々してられるから」

——聞いてみると、更生園では毎日四時から五時の間に入浴し、六時までに夕食を食べ終わって、夜寝るころにはおなががすいていたそうです。こっちに來てからはおなががすかないし、一二時ごろまでテレビを見ていられるし、何でも自分で考えてやりたいことがやれる、と言っていました。昔読んだ『もう絶対施設には戻らない』という本を思い出しました。施設から出て、GHに移り住んだ人たちからの聞き書きの本でした。——



町の祭りで見こしを担ぐ戸田さん。頭はきれいな金髪なのだけど……

私「お父さんとは会うの？」

聡「一四日に弟の家族と会いに行ってきました」

——と言ってお父さんのことをいろいろ話してくれました。

実は、お父さんは役場の運転手さんでした。定年退職してから病院経由で、ゆうゆうの里に入居したのだそうです。一日に弟家族が車でやってきて、一日に帰ったのですが、来る前は聡さんが自転車で家に行ったら掃除をし、一日に帰った後もまた自転車（三〇分ぐらいかかる場所）掃除をしに行ったりです。一日から一日まで、聡さんも弟家族と一緒にこの家に泊まってきました。——

聡「マラソンしていたら、柳さんに出会った。柳さんは、すぐそこ（ここ田町）でクリーニングをしていて、お父さんが運転していたころ世話になった人。だから、栗を拾うと届けに行ったりした」（柳成雄さんは、大和町役場の運転員のキャップをしていた方）

今働きに行っているところは、南魚沼福祉会の「あさひばら」

という就労継続B型の事業所です。ここでは、農業を基本とする作業ですが、聡さんは、薪を運ぶ仕事をしている。重たい丸のまんまの木をトラックに運ぶというので「疲れるでしょ?という」と全然。昼休みには、マラソンしてる」とのこと。

九月二日(日)は浦佐で山岳マラソン(フルマラソン)があり、九月九日は町民運動会、「忙しいんですよ」という。毎週土日は、GH桐の花に行つてボランティアとして洗濯干しや、掃除、草取りなど、せつせと働いて職員に喜ばれています。桐鈴会夏祭りの後片付けは、大活躍でした。朝早くから行つてどんどん片づけていました。

私が桐鈴会のヘルパーステーションの管理者をしている佐藤雪江の名前を出したら、満面笑みをたたえて「知ってる!」という。魚沼学園の職員だったので担任ではなかったけど覚えていたとのこと、ここにきて佐藤雪江に出会つてとつても嬉しかったのだそうです。

魚沼更生園から、GHに出たのは、戸田聡さんが初めての方

でした。聡さんが今回地域に出してきたことで、「施設から地域へ」との新しい風が更生園にも流れ、今後も一人でも多くの方が地域で暮らせるようになれば素敵なことですね。

ちょっと一休み!



数字で短文を表してみてください。読めるでしょうか?

(答はどこかに載っています)

ア、五三四五二、九百一七九、九千九百四

イ、七九七五百十四、五百十四七九七

ウ、十億三三四五、一九零三千

エ、一四零、億百五四千六、九六四三

オ、三八万二、三六九、三三四五三四四九零

カ、三十八万二、八九兆六零

「すずかけつて、やさしいばしょ」

桐鈴会理事長 黒岩秩子

六月二六日午前中、浦佐小学校二年生二〇人ぐらいが、「街探検」ということで担任の先生と一緒に桐鈴会を訪ねてきました。三つに分かれての探検だということでした。私が、鈴懸と、桐の花、夢草堂を案内したので

すが、子どもたちが一番驚いたのは、ポータブルトイレでした。「これ何だかわかる?」と私が聞くと、「トイレットペーパーがかかっているから、トイレ?」という子がいました。「そうなの、トイレよ」と言いながら、ふたを開けると、中から出てきたトイレに驚きの声が上がりました。「ポータブルトイレ」とメモして帰って行った子どもたちでした。

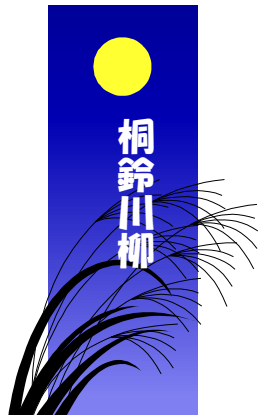
それから、夢草堂に行くと、「どうしてお寺にピアノがあるの?」の声が。この説明をした後、まあるく座つて、インタビュertime。いろいろな質問を

してくれた子どもたちの好奇心がうれしかったひと時でした。それからひと月ぐらいたった学期末のこと。浦佐小学校の二年生から寄せ書きが届きました。一人ひとり心を込めて書いてくれたことが手に取るようにわかつてとつても嬉しかったので、入居者の皆さんに読んでいただけるようにホールに貼っておきました。その中で一番心が動かされたのは、「すずかけはやさしいばしょなんだとおもいました」というなめかたゆきかさんの文章でした。

子どもたちがそんな風に感じてくれたということ、とつても嬉しく思いました。



児童の皆さんが書いてくれた寄せ書き。ありがとうございました。



桐鈴川柳

畑には 西瓜転がる 八色原
風鈴を 楽しむほどの

余裕なし
(井上信吉)

九十に なりて始めての

川柳子

大好きな 八色西瓜が

楽しみだ

(鈴木スミ)

墓参り ちようちんの灯で

山ゆれる

めずらしや 今年はいなごの

大発生

(清水春代) *鈴懸川柳の会指導者

負け将棋 駒を投げ出す

顔見たい

夕立に 金魚びつくり

はね上がり

(井口末作)

暑き夜 氷枕で 眠りつく
墓苔を 筆りて 父母想い出し
(桜梅桃李)

朝焼けの峯の真上に 月細く
風鈴の 音を聞きつつ

今日も暮れ
(にゃんこ)



夏祭りのひとコマ

(右) 今年も屋台は大盛況。
(上) 三年振りに天気に恵まれました。



～ お知らせ ～

揺光・スージン夫妻のソマリア報告

- 日時 10月7日(日) 14:00～16:00
- 場所 南魚沼市浦佐 「働く婦人の家」
- 入場無料

報告会終了後、茶話会をしながら話し合います。
1月6日に夢草堂で報告(凜々82号)した「その後」もありそうです。

編集後記

もうどのくらいこの猛暑が続いているだろうか。私の記憶では覚えのない出来事になっています。

年寄りが多くなり連日、熱中症で救急車の世話になる人が後をたちません。自分の身体、命は自分で労わり、守るしかないようです。

ケアハウス鈴懸事務室の西側の窓の外に、ようやく緑のカーテンが引かれようとしています。入居者の方が設置してくれた朝顔のつるが、この暑さにめげず緑の葉を伸ばしてきてくれたのです。間もなく目標達成です。

少し時季がずれた感がありますが、そのときにはこの努力に対して「ありがとう」の金メダルを贈らせていただきます。この朝顔のように、入居者の皆様も職員も頑張ってくれるものと信じています。

(小林幸子こと私は誰でしょう?)

*二つの「こ」(小と子)を取って、「英」の文字を加えて読んでください。